



カリオン

Vol. 8



2009年2月

発行 姫路赤十字看護専門学校
発行責任者 学校長 湯浅志郎
編集責任者 事務部長 船田理
〒670-0063 姫路市下手野1-12-2
TEL/FAX 079(299)0052(直通)

第110回生 戴帽式

平成20年10月29日(水)すがすがしい秋晴れの中、姫路赤十字看護専門学校第110回生38名(男子学生2名を含む)の戴帽式が戴かに行なわれました。



誓いの言葉

私達は、共に学び、支えあいながら、この半年間を過ごしてきました。毎日の学校生活の中で、看護師としての知識や技術だけでなく、広い視点から物事をとらえ、考えることの大切さを学びました。時には衝突することもありますが、38人で過ごす日々は、私達に仲間の大切さを実感させると同時に、自己を見つめ、成長する、とても大切な時間となっています。

今、私達は看護師の誇りであるナースキャップを頂いたことを、とても嬉しく思い、そして、今まで私達を支えてくださったすべての人々に感謝します。

今日から私達は、看護師への新たな第一歩を踏み出しました。自分の言動に責任をもち、生涯学習し続け、自己を向上させていきます。

また、これからどんな困難が立ちふさがろうとも、それに屈せず、前向きな気持ちを忘れないよう、心掛けます。すべての人に信頼され、ナイチンゲールの提唱する「本当の看護」を提供できる看護師になることをここに誓います。

平成20年10月29日

(戴帽生代表)

行事予定 (平成21年1月~4月)

- 1月 21日(水)22日(木)平成21年度入学試験
27日(火)28日(水)クラスI基礎看護学実習I-2
30日(金)~2月10日(火)クラスI基礎看護学実習I-3

- 2月 22日(日)第98回看護師国家試験

- 3月 4日(水)卒業を祝う会
13日(金)クラスIII卒業式
20日(木)~春季休業
26日(水)国家試験合格発表

- 4月 2日(木)新入生オリエンテーション
3日(木)春季休業終了
7日(火)クラスI(第111回生)入学式
10日(金)新入生歓迎会
29日(水)~5月6日(水)保健週間

姫路赤十字看護専門学校教育理念

【人道】

赤十字における看護基礎教育のねらいは、赤十字の基本原則である『人道』を基盤に、看護の分野において社会の要請に応え得る、豊かな人間性と看護に関する幅広い能力を兼ね備えた看護の実践者を育成することにある。赤十字は、国際的な視野に立って人の命を守り、個人の尊厳と権利を尊重する。その看護活動は、国籍・人種・信条・政治および社会的立場のいかんにかかわらず、人々のあらゆる健康レベルに応じて健康上の問題が解決されるよう支援することである。複雑な要因に影響される健康問題は総合医療活動として包括的、組織的に取り組まれるようになってきている。この保健医療福祉活動の一環を担う看護の機能は、個人のみならず家族、集団、コミュニケーションへのアプローチへと拡大するとともに、より専門的な実践と調整的役割が期待されている。

したがって赤十字における基礎教育終了時には、保健医療福祉システムの一員として、また国内外における赤十字活動の要員として、個人を尊重した看護活動ができる基礎能力を有し、将来看護の発展に貢献できる看護実践者の育成を目指すものである。



【目的】

『人道』『公平』『中立』『独立』『奉仕』『單一』『世界性』の赤十字の基本原則に基づき、殊に最高原則である『人道』を基調として、専門職者である看護師の責務を果すために必要な能力を開発する。

【目標】

1. 看護の対象である人間を総合的に理解する。
2. 健康状態や生活の場に応じた基礎的看護が実践できる。
3. 看護の実践は「安全」で「安樂」を第一義とし、医療事故を未然に防止する。
4. 看護師として他の保健医療福祉チームと協働する基礎的能力を身につける。
5. 看護の実践に際しては、日本看護協会が規定する「看護者の倫理綱領」をよく理解し、遵守する。
6. 赤十字の基本原則を理解し、国内外を問わず赤十字の諸活動に高い関心をもち、また積極的に参画する。
7. 専門職者としての自覚と誇りを持ち、自己啓発する。
8. 効果的な人間関係を築くための基本的能力を身につける。

看護の心をのせて



戴帽式を終えて、自分の頭にナースキャップが戴っているのを見るうれしい気持ちとともに、気が引きしめるふうに感じました。初心を忘れず、理想の看護師像に少しでも近づけるよう頑張りたいと思います。

(クラス I)



憧れだったナースキャップをいただくことができ、とても嬉しいです。

知識や技術が身に付いていくにつれて壁にぶつかる事も多くなると思いますが、入学時の初心と戴帽の喜びを忘れずに乗り越えていきたいと思います。

(クラス I)

戴帽生からの 喜びの言葉



戴帽を嬉しいと思ったと同時に、これからは看護学生として自覚を持って生活しなければいけないと思いました。この気持ちを大切にして、日々笑顔を絶やさない看護師になりたいです。

(クラス I)



私は最初、戴帽式がこれ程重々なものだとは思っていませんでしたが、実際戴帽式を迎え、看護師になる自覚を持つことができました。これからは、ナースキャップに恥じぬよう頑張っていきたいと思います。

(クラス I)

戴帽を祝う会

上級生からの お祝いメッセージ

110回生の皆さん、戴帽おめでとうございます。凛とした真っ白なナースキャップに初々しさが感じられ、皆さんとても似合っています。

ナースキャップをいただいた時の気持ちはいかがでしたか？入学から半年、慣れない学校生活の中で、実技練習やテストなど忙しい日々だったと思いますが、また気持ちを新たにすることができたのではないかでしょうか。私も自分たちの戴帽式を思い出し、ついこの間のことのように懐かしく思いました。

これから先、きっとたくさんの辛いことや困難が待ち受けていると思います。しかし、皆さんがナースキャップをもらった時に抱いた気持ちをいつまでも忘れずにいてください。

(クラスⅡ)



特別講演

“夢のある看護について”

広島赤十字大学学長 新道 幸恵先生



講演中の新道幸恵先生



私たち110回生も先輩方と同じようにナースキャップをいただき、新たな気持ちで立派な看護師になれるよう、勉強・身だしなみ・生活、すべての面で立派になれるよう日々努力しています。

新道先生の「夢のある看護について」の講演を聞き、看護師になることは簡単なことではないと思いました。素晴らしい看護師になるためにはこれから医療の現場で多くの試練にぶつかり、より多くのことを学ばなければならないということが分かりました。新道先生は患者さんをただ単に援助するのではなく、患者さんを自立させる援助を行わなければならないと教えてくださいました。そのためには、観察力が必要で、観察するためには知識が必要になり、そしてその知識を患者さんに納得してもらうまで勉強しなければならないとおっしゃいました。

私たちはまだ、看護師になるという道を歩み始めたばかりで、するどい観察力や知識も身についていないけれど、これから先生方・先輩方からいろいろなことを教えてもらい、それを自分のものにして、患者さんのためを思った看護をしていくこうと思います。

(クラスⅠ)

日本赤十字社本社研修



日本赤十字社本社研修を終えて

10月7日～10日の4日間、私たち109回生は、日本赤十字社本社研修へ行かせていただきました。研修では社内や備蓄庫を見学したり、ビデオやスライドで赤十字の歴史や事業内容を知り、赤十字社について深く理解することができました。

また、「もっとクロス」ということで、富山、京都第二赤十字の看護学生のみなさんとの交流の場をもたせていただきました。それぞれの学校を紹介するスライドを見たり、会話をしたり、普通ならできない他府県の看護学生と、とても楽しく充実した交流ができました。これからも赤十字とのつながりを大切に、共に赤十字の活動に参加していくべきだと思います。



(クラスⅡ)

本社研修で、川嶋みどり先生の講演を聞かせて頂く機会がありました。先生の話を聞かせて頂いて、私は看護の暖かさを感じました。看護とは気持ちと手とタオルで行えると先生は言われ、コップ1杯の湯とタオルで患者さんを救うことができるという話もして下さいました。難しいことではなく、暖かい気持ちを持ってその人自身を見つめ、手を差しのべることが看護の第一歩であるのかなと感じました。

また、普通の生活を通して感性や想像力を磨く大切さも学びました。小説を読んだり好奇心を持つことで、自分のアンテナは高くしていくことができます。先生の看護に対する情熱や知識は素晴らしい、とても刺激を受けました。私ももっと看護を好きになって、日々の生活から努力をしていきたいと思います。

(クラスⅡ)

保育所実習



11月6日・7日、小児看護概論の授業の一環で保育所実習に行かせて頂きました。普段から子どもと接する機会の少ない私たちにとって、保育所実習は子どもとの関わりを体験する貴重な経験となりました。子どもの食事・排泄・睡眠などの介助や遊びを通して、子どもにとって一つ一つの動作すべてが勉強である、ということを感じることができました。また年齢差や個人差により、出来る生活動作が異なることを直接目にして、子どもの身体的・精神的・社会的発達について学ぶことができました。この学びを、これから始まる小児病棟での実習に活かしていきたいと思いました。

(クラスⅡ)

球技大会



私達は毎年11月に病棟の看護師さんをお招きして、球技大会を行っています。普段、あまり体を動かす機会が少ない私達にとって、心身ともにリフレッシュする良い機会となっています。また、他学年の学生、教務の先生方、病棟の看護師さんと交流を深めることもでき、毎年とても充実した1日となっています。

今年は学年対抗のバレーボールとバドミントンの試合の他に学生対教務の先生と病棟の看護師さん混合チームの親睦試合を行いました。学年対抗の試合では応援も非常に盛り上がり、学年の団結力も強まったように思います。これから、学年が上がっていくにつれ、壁にぶつかることがあると思いますが、互いに支え合い、励まし合いながら頑張っていきたいと思います。

(クラスⅡ)



クラスⅢ

院外実習



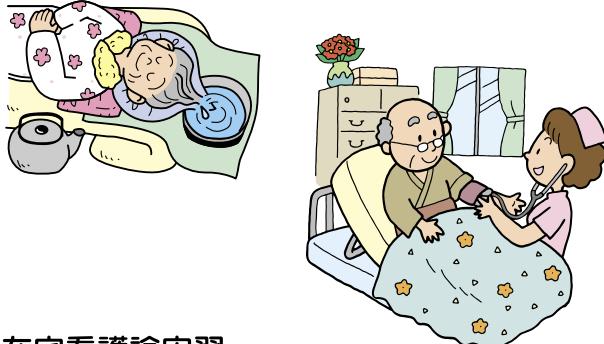
※写真掲載の許可を得ています

在宅看護論実習 (姫路赤十字訪問看護ステーション)

訪問看護では、多くの利用者さんの家に行かせて頂きました。在宅看護ということで、看護をするにあたって他に医療スタッフはいません。そのため、高いアセスメント能力や判断力、責任感がないとなかなかできないと思いました。

在宅看護は、ただ医療的サポートを行うだけではなく、経済面・精神面・身体面・社会面など統合的にアプローチが必要なのだということを学びました。一人ひとりの利用者さんからの学びが多く、とても充実した実習をすることができました。

(クラスⅢ)



在宅看護論実習 (あすなろ訪問看護ステーション)

在宅で療養されている方のところへ一緒に訪問させて頂き、日々の健康状態の把握、清潔の援助などを一緒にさせて頂きました。週に数回、何時間かの短い訪問ですが、その中で療養者さん・家族のことを理解し、今必要としている援助を行うことの大切さや難しさを実感しました。

また、在宅療養をすることが療養者さんにとってどれだけ心安らぐものなのか、一方で療養者・家族の方の不安が大きいことも知りました

3年生も残すところあと少しとなりましたが、この実習で学んだことを大切にし、自分の看護ができるよう日々の学びを大切にしていきたいと思います。

(クラスⅢ)

老年看護学実習 (兵庫県立循環器病センター 高齢者脳機能治療室病棟)

実習では、初めて認知症の患者さんと接しました。認知症とひとまとめに言っても、症状の程度は様々ですが、見当識障害がある患者さんが多いので、複雑な言葉よりも解りやすい言葉で丁寧に話しかけることが必要だと感じました。また、患者さんの示す徘徊や幻覚などの言動の裏にある意味について考え、まずは“対象をよく知る”ことで、患者さんのペースに合わせた行動や声かけが大切だということを学びました。

患者さんが他者と交流して気分転換を図り、精神活動を活発にすることを目的として学生が玉入れや音楽鑑賞、魚釣り等の遊びリテーションを企画して実施しました。普段は参加されない患者さんも参加してくださいり、昔を思い出したように笑顔で楽しんでおられました。

(クラスⅢ)



精神看護学実習 (播磨大塩病院)



はじめは、幻覚・妄想など精神症状にどう対応すればいいのか不安や緊張がありました。しかし、患者様と一緒に過ごすうちに、自然に患者様に寄り添うことができたと思います。

写真は、野外でのレクリエーションの様子です。昼食にバーベキューをしたのち、仮装をしてジャンケンゲームをしました。患者様の表情が病棟とは違って生き生きとしておられ、レクリエーションの効果を実感しました。精神看護学実習では、看護の基本である患者様の健康な面に目を向けながら関わるの大切さを学びました。

(クラスⅢ)



※写真掲載の許可を得ています

活躍する卒業生

「看護師になり2年たって」

8階西病棟に勤務しています、第105回生の福本淳志です。小児病棟では「子どもの笑顔が見たいから、私達も笑顔で頑張ります」を合言葉にみんなで日々看護に励んでいます。私は男性看護師として、子供たちにとって父性役割を發揮できるように日々努力しています。これからも、患者さんとの関わりを通して色々なことを学び成長していきたいと思います。

(平成17年度卒業生姫路赤十字病院勤務)



「養護教諭特別別科に進学して」

はじめまして。第106回生の山脇理子です。私は昨年の3月までの1年間姫路赤十字病院、4階東病棟で勤務していました。現在は養護教諭を目指して、岡山大学養護教諭特別別科に在学しています。3年間の看護学校での学びと1年間の病院勤務は、嬉しいことも辛いことも大変なことも、様々なことを経験してきました。この4年間は平均寿命（約80歳）に換算すると人生のうちの約20分の1ではありますが、職場内外を問わず社会の一員として生活していく上の糧・キーポイントになったと私は感じています。

みなさんも、これからも自分の目標に向かって頑張ってください。



(平成16年度卒業生)

「助産師学校に進学して」

私は今、日本赤十字社助産師学校に通っていて、一日一日新しい学びと発見で充実した学生生活を過しています。勉強や実習、母親学級とやるべきことが多く、もう辞めたいと思うこともあります。でも生命の尊さや素晴らしさ、母親の強さや偉大さを肌身に感じることができ、助産師になれるという喜びをかみしめながら、残りの実習を仲間とともに乗り越えていこうと思います。



(平成19年度卒業生)

同窓会

10月18日(土)第28回姫路赤十字看護専門学校同窓会がホテル日航姫路で開催されました。日本赤十字社兵庫県支部事務局長、東田雅俊様はじめ6名の来賓をお迎えし、同窓生139名が参加し、総会、記念撮影等が行なわれました。催しでは、バングラディシュで国際救援の活動をしている高原美貴さんからのビデオレターが紹介されました。

本校は明治42年に創立され、平成21年4月で100周年を迎えます。背筋がきりりと伸びた大先輩方にお会いし、歴史をつなぎ次世代へ受け継いでいく責任を感じる機会となりました。

(教務主任：柳 めぐみ)



2008.10.18

講 師 紹 介



ラジオ関西で3年間程30分もののトーク番組を持った。「自分らしく生きよう」が大げさなテーマですが、今は「自分のものさしで生きよう」と言っています。要は自ら考え判断する力こそ大切だというわけです。子供も大人も…。

(社会学・人間関係論講師)



麻酔科学は全身管理を基盤としています。麻酔だけでなく、集中治療、救急、ペインクリニックと多岐にわたり、診療をしています。講義はそれぞれ、大森、倉迫、八井田、仁熊が担当しました。年齢、体型に似合わず、テニス、バレーボール、サッカーとスポーツを楽しんでいます。

(姫路赤十字病院麻酔科部長)



講義では「成人看護学援助論Ⅱ全身症状」を担当しています。私の所属する8階東は内科単科の病棟です。準クリーンルームが8床となり、血液疾患患者が約半数を占める病棟です。スタッフは、とても明るく元気で働いています。

学生の皆さんのが実習に来られる時の、私の師長としての役割は、「学生が実習する場（居場所）を提供する事」と考えています。看護師の後輩であるみなさんと、「看護の喜び」と一緒に感じられるようにチームの一員として迎えたいと思っています。

(姫路赤十字病院8階東病棟師長)

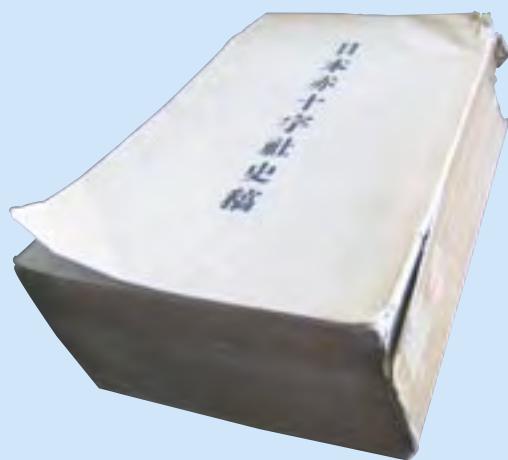


歴史シリーズ

日本赤十字社史稿

本校には現在「日本赤十字社史稿」が創刊号（明治44年発行）より平成7年までの全10巻が揃っている。写真は創刊号である。日本赤十字社設立の経緯、赤十字諸活動について記されており、日本赤十字社の歴史を知る貴重な手がかりとなる資料である。ちなみに写真の創刊号は、B5判、厚さ7.5cm、本文1785ページ附録285ページに及ぶ。本文749ページより約50ページにわたり「第二編第八章第三節看護婦の養成」があり、その中に兵庫についての記載も見られる。

(副校长：樺山 たみ子)



関西看護学生研究大会 回演発表



第6回関西看護学生看護研究大会で、外科病棟での学びを発表させて頂きました。発表はとても緊張しましたが、沢山の質問や感想を頂き私自身とても貴重な経験となりました。

発表に至るまで何度も挫けそうになりましたが、臨地実習でご指導いただきました指導者の方々、連日遅くまでご指導下さいました先生方、多くの励ましと力をくれたクラスメイト、そして何より多くの学びを与えて下さった患者様の協力で頑張る事ができました。

(クラスⅢ)



教員養成講習の実習

10月23日から11月12日まで、兵庫県看護教員養成講習会の教育方法実習でお世話になりました。

教育方法実習では、講義を見学し一緒に考え、臨地実習の見学をさせていただきました。実習を通じて、学生さんが看護について一生懸命考え、つかみ、進もうとする前向きな姿勢を感じることができました。

この実習の学びを糧にしてそれぞれの道を進めるよう日々楽しく学んでいきたいと思っています。ありがとうございました。



(講習生一同)

ボランティア

60周年記念あいむフェスタ



11月3日、地域の人と法人あいむが繋がっていくことを目的として、広畠学園であいむフェスタが開催されました。ステージではコンサート・よさこいソーラン、体験コーナーでは藍染、バザーや模擬店も多く出店していました。今回初めて学校から教師が参加しAEDの演習、健康相談を担当しました。健康相談では、血圧測定や聴診器で心音を聞いてもらいました。子供を持つ親御さんや子供達もとても興味深く参加してくれました。赤十字や学校の活動を紹介する機会となりました。



9月から勤務しています。
よろしくお願いします。

(教務助手)

季節の花々

石州瓦と紅葉



世界文化遺産となった石見銀山にて、関西ではあまり見られない赤い色の石州かわらに紅葉が映えて、とても美しいものでした。今年は台風の上陸が避けられることで葉が残り、学校や病院周辺の紅葉も長く楽しめました。

(専任教師：横田 裕美子)

編集後記

学生を自律した一人の考え方の看護師に育てたい、そのためには、どのように教育することが学生にとってよいのか、方法を考えているうちに本来の目的を見失うようになる自分がいる。「学生にとって」を考えているはずなのに、学生を苦しめることになっていないのか不安になる。「それでいいんだよ」と誰かに言ってほしくて、答えを求めてどこにもなくて、結局OKサインを出すのは、自分自身でしかないのだと気づく。

学生もきっと私以上に「それでいいんだよ」を求めているのかなと思う日々であるが、どうだろう。

(専任教師：名村 かよみ)

